

認知症とともに生きるために

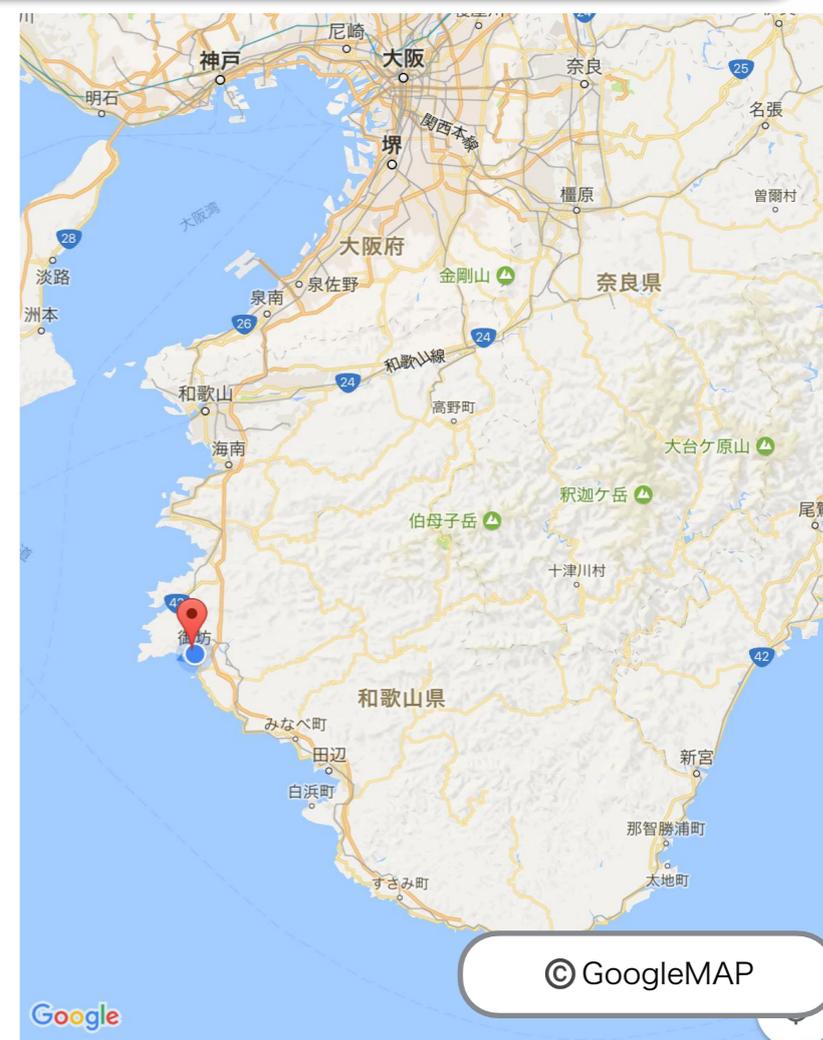
～本人視点を重視し、誰もが活躍できる地域をめざして～



御坊市市民福祉部介護福祉課 谷口 泰之

御坊市について

- 紀伊半島海岸部のほぼ中央部
- 総面積：43,91km²
- 日高川を境に河北、中央、河南エリアに生活圏域
 - 河北：地元の方と移住の方が混在。
 - 中央：官公庁や商業施設が集中。
 - 河南：農業や漁業が盛ん。2世帯同居が多く残る
- 昼夜間人口比率：113%



平成30年4月1日現在

総人口	65歳以上人口	高齢化率	日常生活圏域	認知症地域支援推進員
23,780人	7,245人	30.5%	6圏域	6人
独居高齢者数	要介護認定者数 (第1号被保険者)	認知症日常生活自立度Ⅱ以上	第7期介護保険料基準額	地域包括支援センター数
2,239人	1,719人	1,101人	6,520円	1 (直営)

御坊市の自慢



スターチス生産量日本一



人を見たけりゃ”御坊祭”



日本のシンデレラ”宮子姫”生誕地



幻の品種”まり姫”



麻雀牌・サイコロ生産量日本一



西日本一短い鉄道”紀州鉄道”

御坊市の認知症施策に関する組織図

介護福祉課

地域包括支援センター

認知症初期
集中支援チーム

認知症地域
支援推進員

高齢福祉係

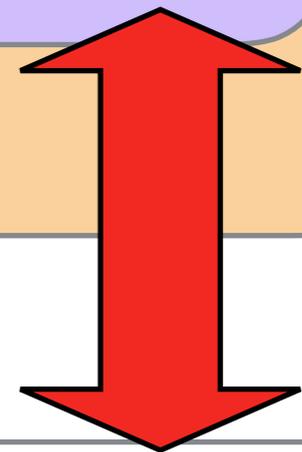
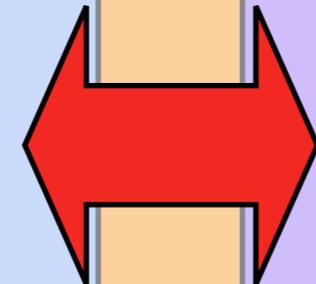
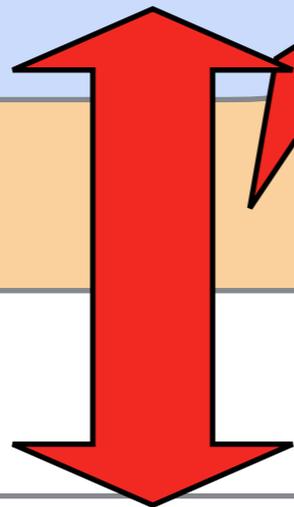
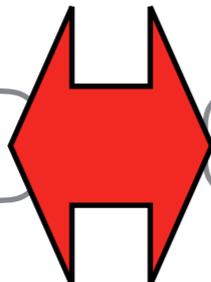
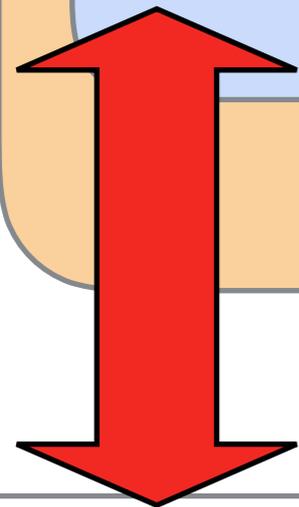
介護保険業務全般
要介護認定業務
介護保険事業計画策定
緊急通報システム
デイケアサロン
グループホーム利用助成事業

認知症サポート医

認知症疾患医療センター

在宅介護支援センター

認知症地域支援推進員



これまでの御坊市の認知症施策

認知症地域支援体制構築等推進事業（H21～22）

- ・ 「認知症コーディネーター会議」 発足
- ・ 認知症地域資源マップ
- ・ 高齢者安心サポート事業
- ・ 安心声かけ訓練
- ・ キャラバン・メイト養成研修
- ・ 認知症連携担当者配置

市町村認知症施策総合推進事業（H23～25）

- ・ 認知症地域支援推進員配置
- ・ 認知症疾患医療センターとの連携体制づくり
- ・ キャラバン・メイト中心のまちづくり組織結成
- ・ 若年性認知症の方への支援（1人の関わりから）

認知症総合推進事業（H26～）

- 御坊市認知症ケアパス作成⇒第6期介護保険事業計画に反映させる
- ・ 認知症初期集中支援チーム設置（H27. 10月）
- ・ 介護家族のつどい「ごぼうホッとサロン」開設

今までの取り組みを継続しつつ、
総合的な取り組みに再構築

H28年度～ 「ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト」

推進員の役割って大変じゃないの？

認知症カフェの運営？

認知症サポーター養成講座の展開？

RUN伴の開催？

認知症ケアパス作成？

事業をこなすことで精一杯・・・

でも、**本人の思い**ってどうなの？

「私たち抜きに私たちのことを決めないで！」

行政から求められている推進員の役割

本人の声に耳を傾け、本人の視点に立ち、
本人とともにこれからの暮らしを考える。
その先に、認知症になっても自分らしく暮
らせるまちをつくるのために、多くの仲間
(本人含め) と地域づくりに取り組む。

本人視点の重視

ある認知症の男性が毎日、
スーパーで弁当とビールを買います。
財布に小銭があっても、お札で支払います。



なんで???

その買い物時、缶ビールは箱で買わず
毎日2本ずつ買います。



なんで???

やりたいことを
本人とともに実現し、
運転“しなくていい”生活へ

本人と関わったきっかけ

- 民生委員から「最近、近所の男性が朝から車に乗って出かけるみたいやけど、事故とか起こしたら・・・仕事もしていないはずなのにどこへ？」
- 後日、自宅訪問するも本人不在。
- 妻「毎日、**仕事に行く**って車乗って出て行くんですよ。だから**私も弁当作って持たせているの**」

どこへ行っているのだろう？

早朝に家を出るタイミングで**会いに行こう！**



車は傷だらけ・・・

運転中の視線や、ブレーキのタイミング等
どんな感じなんだろう？気になるけど・・・

※本人・家族に写真使用了承済み

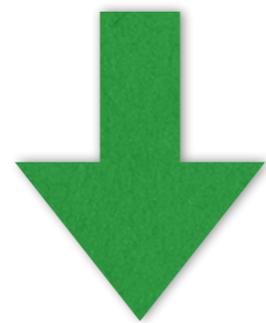


本人の「仕事場」



乱雑に物が置かれている

仕事場まで行くために車が必要



**仕事場を変えれば、車は不必要？
介護認定を受けて、認知症対応型
デイサービスへ繋がられないか？**

本人のチカラ～役に立ちたい～

- 要介護認定を受けていただき、要介護1と認定。
- 認知症対応型デイサービス管理者に相談。
- 「事業所に手づくりのお地蔵さんがあるのですが、その祠を作っていただけませんか？」

**本人 「ワシがみんなの役に立てるんやったら、
どこへでも行くよ！」**

自分の「居場所」 → 地域で活躍！



使い慣れた道具を持参して作業



お地蔵さんのほこら作り



デイサービス内で本人ミーティング

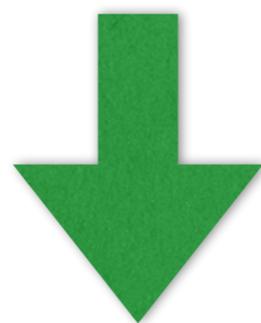


手づくりのお地蔵さん

スタッフの気づき→本人の思い

●ほこら作成中に別の利用者たちが「これ完成したら“餅まき”やな」と盛り上がった。

●スタッフは聞き逃さず、包括に報告。「本人たちが餅まきやるって盛り上がってます」



それ、本人ミーティングやん！

本人ミーティングってこれだ！

●行政として

本人ミーティング実施のために、企画・運営・実施をどうするか悩んでいたが・・・

●認知症デイの様子を見て

ここに毎日、本人が集まってるやん！

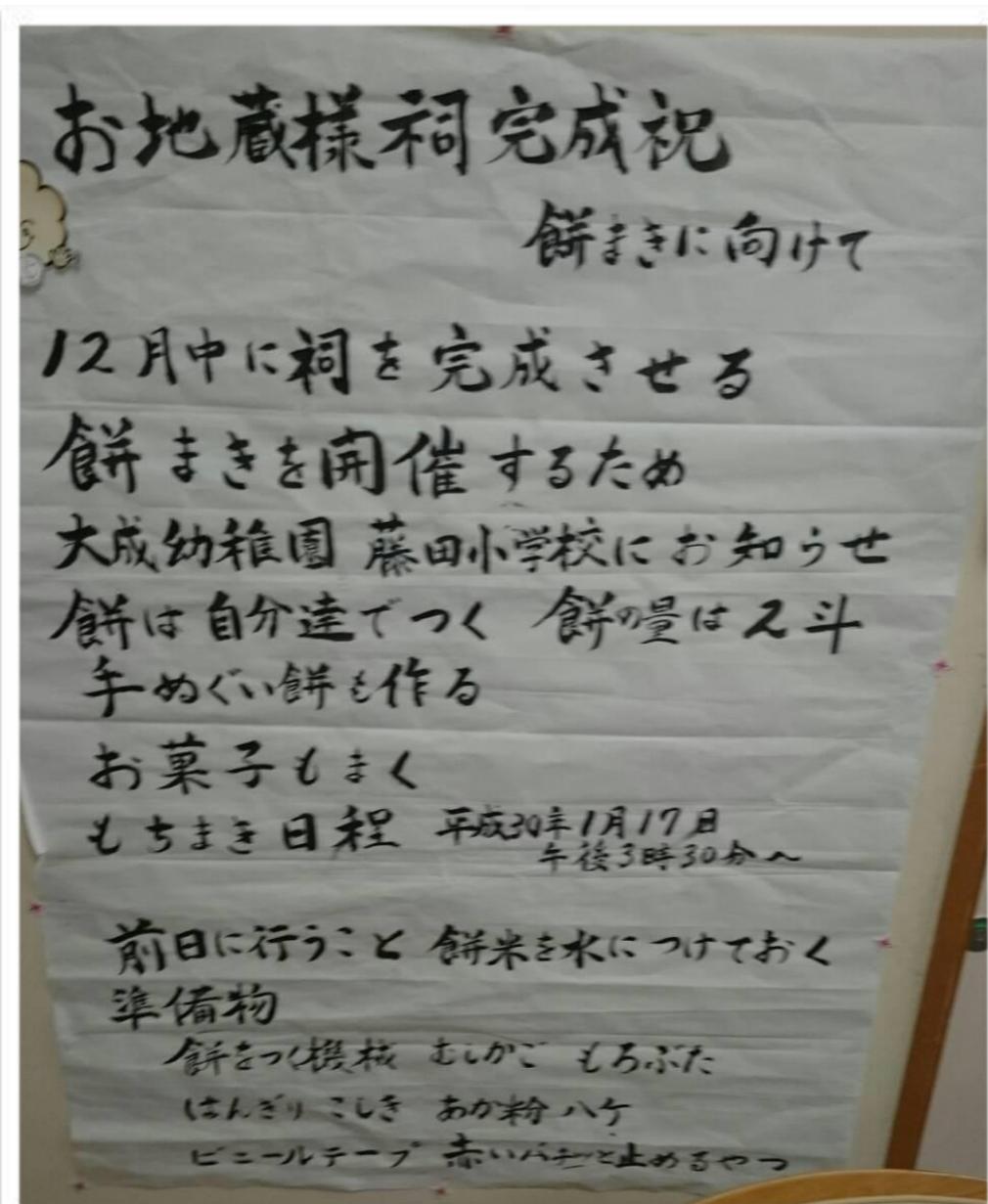
特別なことしなくても、ここがまさしく本人ミーティングの場になってる！

「餅まきミーティングの記録を残しておいて！」とスタッフに依頼

本人ミーティングは特別な場ではない！

ほこらが完成したら餅まきしたい！！

餅まきの聖地
和歌山！



記録の清書は別の利用者が作成

餅まき実現のために、デイ利用者の本人たちが会議をして計画。

つきたての餅を撒きたいから、当日の朝から餅つきしよう！

杵と石臼でやる？（職員提案）

しんどいから、機械でええわ（本人たち）

本人本位！

地域密着型サービス事業所運営推進会議にて

- 事業所の地域密着型サービス運営推進会議にて、本人ミーティング実施したことを報告。
- 参加した住民から「もち米足りる？うちにあるから持ってくるよ」と協力の申し出。

**本人ミーティングをきっかけに
地域とつながり、地域の人活躍！**



介護福祉課長も駆けつけ、認知症の人たちと
ともに餅づくりに参加

「字の達人」が餅に字を入れる





祠の完成を祝い、餅まき前に「棟梁」が地域の皆さんに挨拶
「地域の皆さまのおかげで無事に完成しました！」



多くの住民とともに完成を祝い餅まき開始



今日から「新居」に引っ越しです



日高新報

新春初売り
パールネックレス 7mm
お年玉価格 9,800円(税込)
宝石・時計 オオハタ
メガネの
磐前市湯川町材部662 電話24-0468

利用者自ら発案、企画

あがら花まるで餅まき



幼稚園児や小学生、地域住民らでにぎわう餅まき

認知症対応型デイ

御坊市藤田町藤井、認知症対応型デイサービスあがら花まる(玉置哲也管理者)で17日、利用者が手作りした祠(ほころ)の完成を祝って餅まきが行われた。発案から企画、当日の運営まですべて利用者が中心となり、職員は手助けのみ。「本人が望むことを形にすることがこれからの認知症支援のあり方」といわれるなか、県内でも先駆的な取り組みとなり、初のイベントは地域住民でにぎわい大成功となった。

同施設で昨年10月かの腕を生かし、利用者作り始めたのがきっかけ。男性を含めた利用者を3回利用している御坊蔵さんを祭れるように、者仲間5人が雑談の中で、高さ約1.5mの祠を、完成したら、餅まきの開始前には上がり、

「餅は杵と臼でつくのはしんどいので、機械を使おう」「餅まきは1月の大安の日の17日にしよう」「普段来てくれる幼稚園児や小学生には菓子もまこう」など意見を出し合って自分たちで決め、職員に手伝ってもらいながら準備を進めた。話を聞いた住民からも米が提供され、イベント当日の午前中からみんな餅をつき、丸めて袋に入れる作業も利用者

が中心になって行った。朝からあいにくの雨が中心になって行った。朝からあいにくの雨が中心になって行った。朝からあいにくの雨が中心になって行った。

地域住民、藤田小学校児童、大成幼稚園の園児ら約50人が訪れた。完成した祠をお披露目し、玉置管理者が利用者の男性が手作りの祠のことを説明した上で、「皆さんが幸せになるようにと手作りにお披露目させていただきます。気軽に手を合わせに来てくださ」とPR。元大工の男性も「皆さんの力をお借りして、こうしてお祝いすることができま

インバウン 日高広域

日高地方の1市6町と日高振興局などをつくる日高広域観光振興協議会(金崎昭仁会長)は17日、同振興局で事業者向けの訪日外国人観光客(インバウンド)対応研修会を開き、日高地方の観光関係事業者らが参加した。講師は和歌山マリーナシティ株式会社海外営業課長の恩田政二

性化について所信を

車の運転はどうなった？

- 祠の完成を目指し、週3回（月水金）デイサービスを利用するようになる。
- デイ以外の日は「今日は休み」と言うようになった。
- 倉庫へ木材を取りに行くのも、デイのスタッフとともに行く。

**本人にとって、車の運転の必要が
なくなった！**

民生委員の「心配」から餅まき実施まで

本人と出会い、ほこら作りが始まり、「餅まきしたいなあ」の声で、多くの方（多様な立場）との出会いがあり、様々な「活躍」が発生。

**本人を中心に、
地域が繋がり始めた**



推進員の“ヒラメキ”??

同僚がア○ゾンで購入したパソコン
モニターラックを見て
「これ、作れるんじゃない？」



既製品のサイズを測り、
手書きの設計図を作成

大工の技術を頼りに推進員から個人的依頼

使い慣れた道具で次々に作業開始！



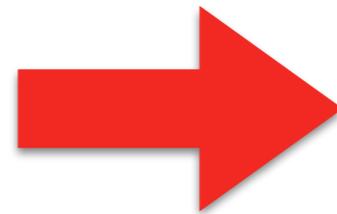
高い完成度で、注文殺到！

他の事業所にも様々な特技を持つ人がいる！

A認知症デイ

部品の加工

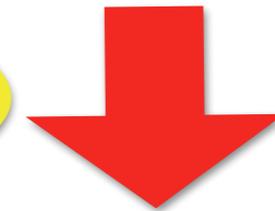
部品の組立、完成！



B認知症デイ

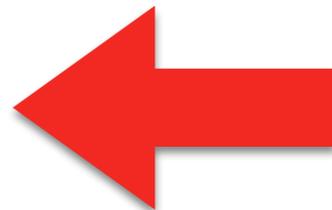
加工した部品をヤスリがけ

認知症地域支援推進員



C小規模多機能

ヤスリがけした部品に塗装



事業所（法人）の壁を超えて連携！

本人から本人へ作業を引き継ぎ

名付けて

地域密着“循環型”サービス！

これからも、努力していかなあかんと思ってます。
みなさん、これからもよろしくお願いします。



スターチスの花言葉とともに

スターチスは、御坊市が出荷量
日本一を誇る花です。

花言葉は

「途絶えぬ記憶」

「変わらぬ心」

「永久不変」

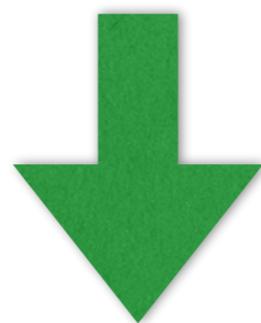


認知症になっても、
その人自身であることには変わりない

スターチスの花言葉とともに

「認知症とともに歩むまちづくり」

- きっかけは、居酒屋での雑談？
- 認知症地域支援メンバーと飲み会中、推進員の同級生であるスターチス農家が居酒屋店内に入ってきて、テーブルに合流（乱入？）。
- 「スターチス、なんとかしてくれよ！」と言われる。



ステキな花言葉！

認知症支援とコラボできそうやん！！

「フラワーボーイズ」との連携

居酒屋での一件から数日後、今後何かできないか、スターチス農家の若者たちとともに、話し合う。

農家の方たち

- JA青年部を中心に、「**フラワーボーイズ**」を結成し、花のPR活動を行っている。
- 母の日の起源にあやかって「**母の日参り**」というイベントを啓発。

認知症支援チーム

- スターチスの花言葉とともに、地域づくりを考えている。
- スターチスの花を使った啓発グッズを作成したい。

啓発グッズの考案・製作

- スターチスの花を一輪と、花言葉を記載したカードを同封してノベルティ作成。
- 花は、フラワーボーイズから出荷できない花等を無償提供してもらう。



認知症の本人の声「役に立ちたい」

ノベルティ作製について、認知症の方たちの力借りよう！

認知症対応型デイサービス等、事業所の壁を超えて、4事業所共同で製作。

さらにフラワーボーイズと話し合い

- ノベルティを作成して、認知症の方とともに取り組んでいることをフラワーボーイズに報告。
- フラワーボーイズより
「母の日参りのための無料配布花束を作らないといけないんですが、それが大変で・・・」



フラワーボーイズと話し合い

認知症の本人の声 **「役に立ちたい」**

認知症の方たちの力を借りて、花束作製を手伝ってもらおう！



フラワーボーイズ「本当にお願いしていいんですか？」

ビニールハウスでスターチス収穫！

フラワーボーイズの厚意でビニールハウス1棟をお借りし、収穫。
デイサービス等9事業所から利用者やスタッフが参加し、交流。

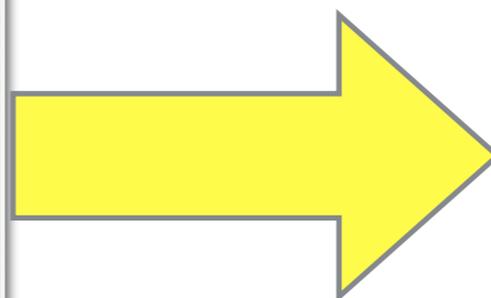
「このあと、そこの店に1杯行こうや〜🍺」（認知症の本人）



本人たちの「活躍」



ノベルティ作製で活躍



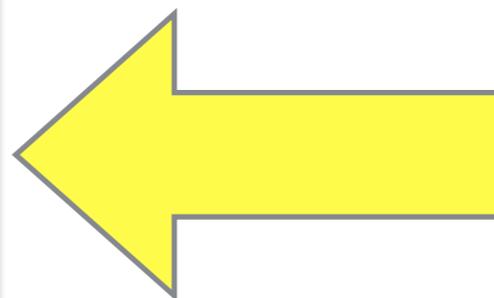
もっと
役に立ちたい!



スターチス収穫で活躍



フラワーボーイズに花束を渡す



花束作製で活躍

私は九十一支になるけれど
今が一番充実している

色々なことに興味があるし
それを支えてくれる沢山の

人がいる

本当にありがたいと思う

NHK厚生文化事業団 「認知症にやさしいまち大賞」

受賞団体への表彰状を御坊市在住91歳の認知症の女性が筆耕

第一回

認知症にやさしいまち大賞

ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト

西山さんから始まった地域づくり

あなた方の活動は認知症七百万人時代を
目前にした今 認知症とともに生きる
当事者とすべての人達が自らの住む町で
ともに安心してよりよく暮らしていくための
先駆的な取り組みとして選考委員から
高く評価されました

取り組みがより発展し国内全体に
広がっていく事を期待しここに表彰
します

平成三十年二月十八日

NHK厚生文化事業団

理事長 鈴木賢一



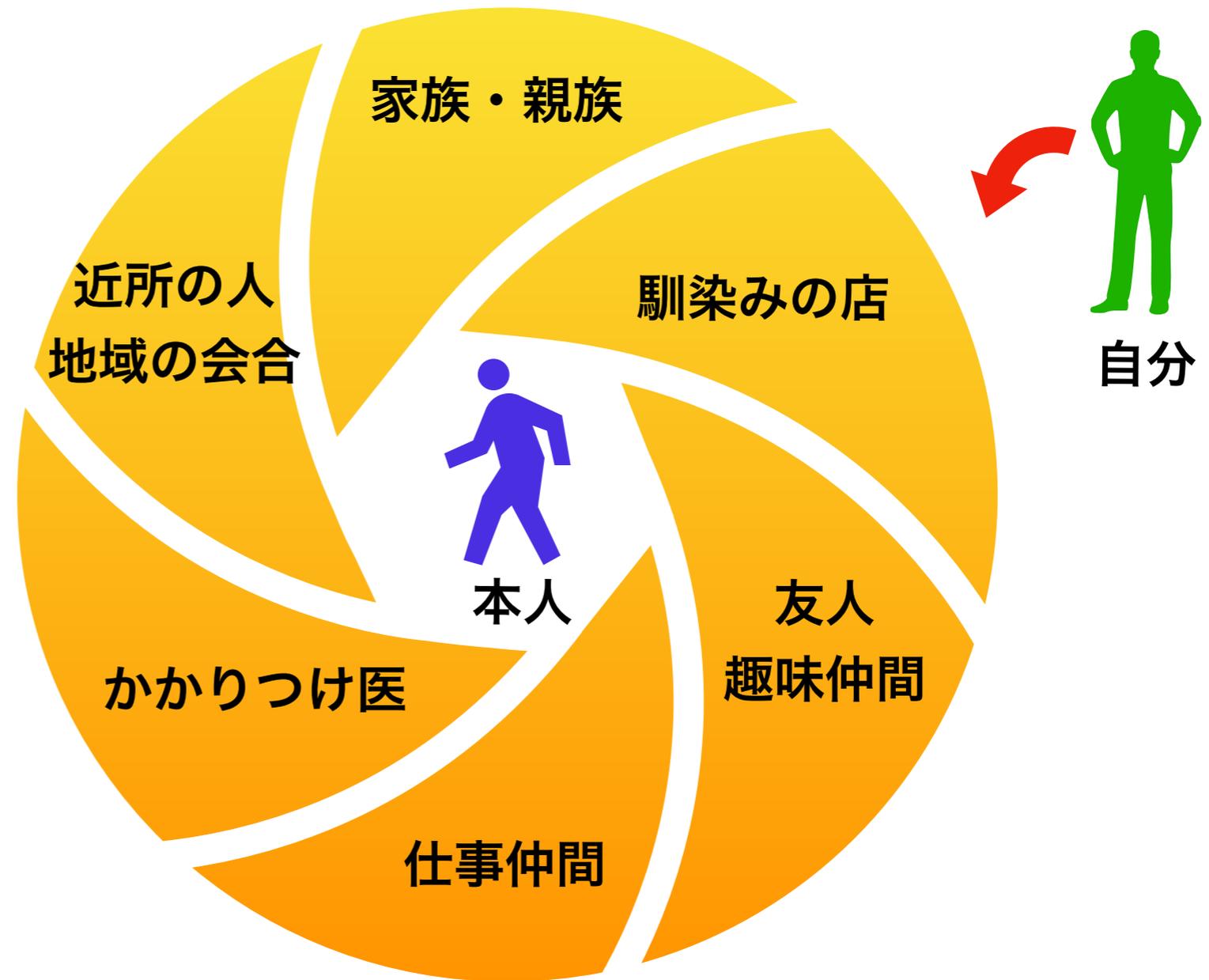
「認知症の人を守る」と
いいながら、私たちは
「当たり前」と「
さえも奪われました。

平成29年度第2回認知症地域支援体制推進合同セミナー
当事者からのサプライズトークにて

巻き込む？ 巻き込まれる！

誰が中心？

「巻き込む」という表現は、自分（推進員）が中心となって風を起こしているイメージ。「本人が中心」となって吹いている風に「巻き込まれる」ことも、ありなんじゃないかな？



「巻き込む」とうまくいかないことも・・・

「**巻き込まれる**」と、自身の（が）新たな資源に。

取り組みを振り返り

地域に出て、本人や家族、地域の人と話をすれば・・・

- 「**1人の声**」から地域がつながり、さらに広がる可能性。
- フォーマルorインフォーマル資源と分けるのは専門職だけ。本人や地域の人にとっては、**支えすべてが資源**。
- **空白の期間**を埋めるのは、**フォーマル資源**でもいいんだ！
- 地域づくりの仲間をどのように増やしていくか？つながりたい相手との**相互の利益**を考える。

でも！

すべてがうまくいくわけではない・・・

そんなときは、一度立ち止まって、本人や家族、地域の人の声に耳を傾ければ、何かヒントが見えてくるかも。

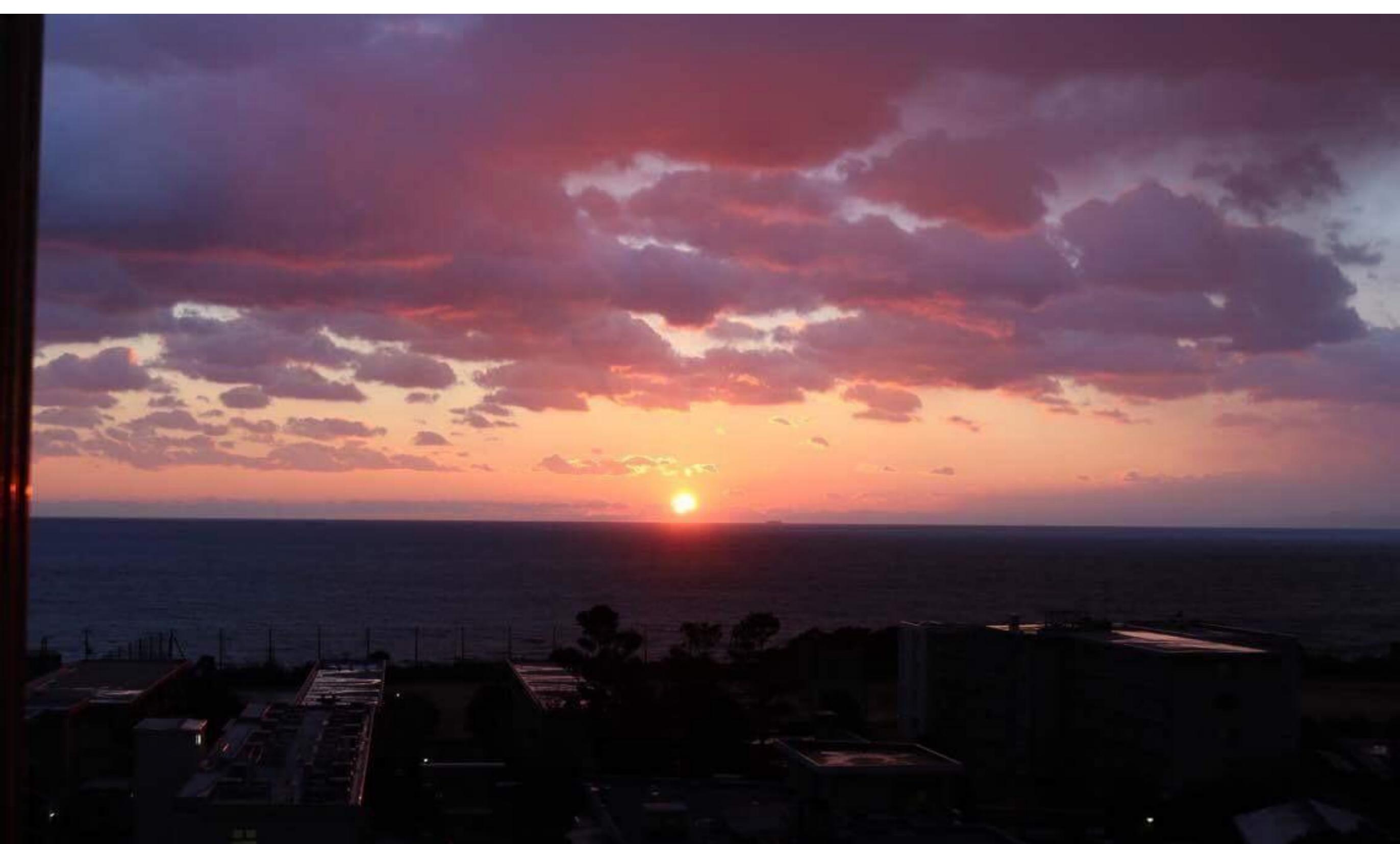
認知症地域支援推進員のみなさまへ

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを、**自分ごと**として考えてみましょう。

自分がこれから、住み慣れたまちでどういう人生を歩んでいきたいか・・・

「認知症の人に」ではなく、「**認知症の人と**」何ができるか。まずは1人でいいから、その人から始まる繋がりを大事に。

今日もたくさんの方との出会いがあったと思います。その仲間とともに、認知症になっても希望を持ち安心して暮らせる地域を作っていきましょう！



撮影 丹野智文さん（撮影地：御坊市名田町）

ご静聴ありがとうございました！